

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3673053号
(P3673053)

(45) 発行日 平成17年7月20日(2005.7.20)

(24) 登録日 平成17年4月28日(2005.4.28)

(51) Int.Cl.⁷

E O 4 D 13/158

F I

E O 4 D 13/158 5 O 1 E

請求項の数 2 (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願平9-66181	(73) 特許権者	000006172
(22) 出願日	平成9年3月19日(1997.3.19)		三菱樹脂株式会社
(65) 公開番号	特開平10-266497		東京都千代田区丸の内2丁目5番2号
(43) 公開日	平成10年10月6日(1998.10.6)	(74) 代理人	100072084
審査請求日	平成14年11月28日(2002.11.28)		弁理士 竹内 三郎
		(74) 代理人	100110962
			弁理士 市澤 道夫
		(74) 代理人	100103399
			弁理士 橋本 清
		(72) 発明者	片平 雅文
			滋賀県長浜市三ツ矢町5番8号 三菱樹脂株式会社長浜工場内
		(72) 発明者	土田 喜嗣
			滋賀県長浜市三ツ矢町5番8号 三菱樹脂株式会社長浜工場内
最終頁に続く			

(54) 【発明の名称】 破風端部役物

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

家屋のけらば出隅コーナーにおける破風と鼻隠しとを、屋根勾配に応じて角度可変に接続する破風端部役物において、前記破風板の出隅部を構成する破風部材は、その下端を内側に屈折して下面板を形成し、その出隅側端部を内側に折曲して蓋板を形成してなり、一方、前記鼻隠しの出隅部を構成する鼻隠し部材は、その下端を内側に屈折して下面板を形成すると共に、その出隅側端部を内側に折曲して目隠し板を形成してなり、前記破風部材の上側端部と前記鼻隠し部材の上側端部間を角度可変に接続固定したことを特徴とする破風端部役物。

【請求項2】

破風部材の内面で補強リブと下面板との間にピース取付台座を設け、該ピース取付台座に閉塞ピース片を固定して、破風部材と鼻隠し部材との交差隙間を塞ぐことを特徴とする請求項1記載の破風端部役物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は破風端部役物に係り、特に、家屋のけらば出隅コーナーにおける破風と鼻隠しとを接続する破風部材と鼻隠し部材とを、角度可変に接続固定することができる破風端部役物に関するものである。

【0002】

10

20

【従来技術とその課題】

従来、折板屋根の軒先方向及びけらば方向に鼻隠し及び破風板を取付けるために、上端破風板取付部及び下端破風板取付部、並びに、これらを連結する縦延部を有するH部と、このH部における縦延部の横方向に横延部とが形成された折板屋根の鼻隠し及び破風板取付金具に関するものは、例えば、特開平8-319707号公報に開示されている。

【0003】

しかしながら、上記折板屋根の鼻隠し及び破風板取付金具は、屋根勾配に対応して鼻隠し及び破風板を固定的に取付けるための取付金具であって、屋根勾配に対応した可変調整可能な機能は無いので融通性に欠けると共に、鼻隠しと破風板とを出隅コーナー部で接続する部材としての機能を有しないので、出隅コーナーにおける仕上り外観が損なわれると云う問題がある。

10

【0004】

また、例えば、特開平8-144454号公報には、けらばカバー下面の下端先端から雨水が吹き出すのを防止するための屋根のコーナー部構造が開示されている。

即ち、図6に分解斜視図で示す如く、軒樋本体611と、この軒樋本体611の端部に連続して設けられて、けらばの下端部近傍に配置されたけらば収納部612とを備え、前記軒樋本体611は、建物側の後側壁611aと、外側の前側壁611bと、両側壁の間の本体底壁611cとを備え、前記けらば収納部612は、けらばカバー68の下面を下方から覆う収納部底壁612aと、この収納部底壁612aの建物側端部から立設されて前記けらばカバー68の内側面を臨む内側壁612bと、前記収納部底壁612aの建物妻側の屋根突出方向の端部から立設されて、けらばカバー68の側面を外方から覆う外側壁612cとを備え、このけらば収納部612に前記けらばカバー68の下端部が屋根勾配上方から差し込まれていることを特徴とするものである。

20

【0005】

しかしながら、上述の屋根のコーナー部構造は、軒樋本体611の出隅部612dに備えた所定の屋根勾配 θ を有するけらば収納部612を、けらばカバー68に内挿して出隅部612dを構成するものであるので、軒樋本体611とけらばカバー68との間は、屋根勾配に対応した可変調整可能な機能は無いので融通性に欠け、各種勾配 θ のけらば収納部612を備えた屋根のコーナー部材を取揃えておき、これを屋根の勾配に応じて都度選定して使用することになるので面倒である。

30

【0006】**【課題を解決するための手段】**

本発明は上記課題を解決するためのものであって、その要旨は、家屋のけらば出隅コーナーにおける破風と鼻隠しとを、屋根勾配に応じて角度可変に接続する破風端部役物において、前記破風の出隅部を構成する破風部材は、その下端を内側に屈折して下面板を形成し、その出隅側端部を内側に折曲して蓋板を形成してなり、一方、前記鼻隠しの出隅部を構成する鼻隠し部材は、その下端を内側に屈折して下面板を形成すると共に、その出隅側端部を内側に折曲して目隠し板を形成してなり、前記破風部材の上側端部と前記鼻隠し部材の上側端部間を角度可変に接続固定することを特徴とする破風端部役物である。

【0007】**【発明の実施の形態】**

以下、本発明の実施例を図面に基づき具体的に説明する。

図1は、家屋の右側のけらば出隅コーナーに取付ける本発明を展開斜視図で示し、図2は、本発明を取付けた状態を右側面図で示し、図3は、家屋の左側のけらば出隅コーナーに取付ける本発明の一実施例の取付け状態を内側斜視図で示し、図4は、家屋の左側のけらば出隅コーナーに取付ける本発明の他の実施例の取付け状態を内側斜視図で示し、図5は、本発明においてピース取付台座に固定した閉塞ピース片を斜視図で示す。

40

【0008】

本発明は、図1及び図3に斜視図で示す如く、家屋のけらば出隅コーナーAにおける破風1-1と鼻隠し2-1とを、屋根勾配 θ に応じて角度可変に接続する破風端部役物におい

50

て、前記破風 1 - 1 の出隅部を構成する破風部材 1 は、その下端を内側に屈折して下面板 1 1 を形成し、その出隅側端部を内側に折曲して蓋板 1 3 を形成してなり、一方、前記鼻隠し 2 - 1 の出隅部を構成する鼻隠し部材 2 は、その下端を内側に屈折して下面板 2 1 を形成すると共に、その出隅側端部を内側に折曲して目隠し板 2 2 を形成してなり、前記破風部材 1 の上側端部 1 4 と前記鼻隠し部材 2 の上側端部 2 3 間を角度可変に接続固定することを特徴とするものである。

【 0 0 0 9 】

そしてまた、図 4 及び図 5 に内側斜視図で示す如く、前記破風部材 2 の内面で補強リブ 1 2 と下面板 1 1 との間にピース取付台座 3 を設け、該ピース取付台座 3 に閉塞ピース片 4 を固定して、破風部材 1 と鼻隠し部材 2 との交差隙間を塞ぐことを特徴とするものである。

10

【 0 0 1 0 】

本発明を用いれば、破風部材 1 の上側端部 1 4 と前記鼻隠し部材 2 の上側端部 2 3 間を、角度可変に接続固定することができるので、屋根勾配 θ の大小に関係なく、破風 1 - 1 と鼻隠し 2 - 1 とが交差するければ出隅コーナー A を、一挙に外観仕上り良く取付けることができる。

また、屋根勾配 θ が大きい場合には、破風部材 1 の内面に閉塞ピース片 4 を取付けて、破風部材 1 と鼻隠し部材 2 との交差隙間を塞いでければ出隅コーナー A を体裁良く仕上げることができる。

【 0 0 1 1 】

20

【 実施例 】

(実施例 1)

図 3 に、家屋の左側のければ出隅コーナーに取付ける破風端部役物の取付け状態を内側斜視図で示す如く、破風 1 - 1 の出隅部を構成する破風部材 1 は、その下端を内側に屈折して下面板 1 1 を形成し、図 1 に展開斜視図で示す如く、その中程を内側に屈折することにより長手方向の補強リブ 1 2 を形成し、且つ、その出隅側端部を内側に折曲して上記補強リブ 1 2 と同高の蓋板 1 3 を形成してある。

一方、鼻隠し 2 - 1 の出隅部を構成する鼻隠し部材 2 は、その下端を内側に屈折して下面板 2 1 を形成すると共に、その出隅側端部を内側に折曲して目隠し板 2 2 を形成してある。

30

【 0 0 1 2 】

上記破風部材 1 の上側端部 1 4 と上記鼻隠し部材 2 の上側端部 2 3 間を、リベット止孔 1 5、2 4 を介し、回動可変にリベット 5 により取付け、図 3 に示す如く、屋根勾配 $\theta - 1$ が比較的小さい場合には、破風部材 1 の下面板 1 1 の出隅側下端部を切り欠き、その切欠端面 1 1 1 を鼻隠し部材 2 の下面板 2 1 の内端面に当接させると、破風部材 1 に内接する鼻隠し部材 2 の目隠し板 2 2 によって、ければ出隅コーナー A に生ずる隙間を塞ぐことができる。

【 0 0 1 3 】

本発明を用いて取付け施工するには、先づ、屋根勾配 $\theta - 1$ に合わせて破風部材 1 と鼻隠し部材 2 との角度を設定し、破風部材 1 の補強リブ 1 2 の溝から屋根出隅の下地材に釘等を打込んで固定するが、この際、予め、破風部材 1 と鼻隠し部材 2 の解放端の内面に、各々半分づつが埋込まれるように粘着テープ等を貼着し、その各々に破風継部材 1 - 2 と鼻隠し継部材 2 - 2 の内半分を固定しておく。

40

【 0 0 1 4 】

そして、上記破風継部材 1 - 2 の外半分に破風板 1 - 1 を被せて釘打ち固定すると同時に、上記鼻隠し継部材 2 - 2 の外半分に鼻隠し板 2 - 1 を被せて釘打ち固定して、家屋のければ出隅コーナー A における施工を完了する。

【 0 0 1 5 】

(実施例 2)

図 4 に、家屋の左側のければ出隅コーナーに取付ける破風端部役物の取付け状態を内側斜

50

視図で示す如く、実施例 1 同様に、破風 1 - 1 の出隅部を構成する破風部材 1 は、その下端を内側に屈折して下面板 1 1 を形成し、その中程を内側に屈折することにより長手方向の補強リブ 1 2 を形成し、且つ、その出隅側端部を内側に折曲して上記補強リブ 1 2 と同高の蓋板 1 3 を形成してある。

一方、鼻隠し 2 - 1 の出隅部を構成する鼻隠し部材 2 は、その下端を内側に屈折して下面板 2 1 を形成すると共に、その出隅側端部を内側に折曲して目隠し板 2 2 を形成してある。

【 0 0 1 6 】

上記破風部材 1 の上側端部 1 4 と上記鼻隠し部材 2 の上側端部 2 3 間を、リベット止孔 1 5、2 4 を介し、回動可変にリベット 5 により取付け、図 4 に示す如く、屋根勾配 $\theta - 2$ が比較的大きい場合には、破風部材 1 の下面板 1 1 の出隅側下部は、破風部材 1 に内接する鼻隠し部材 2 の目隠し板 2 2 によって、けらば出隅コーナー A に生ずる隙間を塞ぐことができるものの、下面板 1 1 の切欠端面 1 1 1 と鼻隠し部材 2 の下面板 2 1 の内端面との間に隙間 d を生ずる。

【 0 0 1 7 】

そこで、破風部材 1 の内面で補強リブ 1 2 と下面板 1 1 との間に、ピース取付台座 3 の固定片 3 1 を溶接固定してピース取付台座 3 を取付け、図 5 に斜視図で示す如く、ビス止め部 4 2 によりピース取付台座 3 に閉塞ピース片 4 を固定して、破風部材 1 と鼻隠し部材 2 との交差隙間 d を塞ぐようにしてある。

以下実施例 1 同様に取付け固定して、家屋のけらば出隅コーナー A における施工を完了する。

【 0 0 1 8 】

上記本発明によって、破風部材 1 の上側端部 1 4 と前記鼻隠し部材 2 の上側端部 2 3 間を、角度可変に接続固定することができるので、屋根勾配 θ が小さい場合 ($\theta - 1$) にも大きい場合 ($\theta - 2$) にも一挙に対応させ得ると共に、破風部材 1 の出隅側端部に形成した蓋板 1 3 及び鼻隠し部材 2 の出隅側端部に形成した目隠し板 2 2 により、破風 1 - 1 と鼻隠し 2 - 1 とが交差するけらば出隅コーナー A を外観良く仕上げることができる。

【 0 0 1 9 】

また、破風 1 - 1 の出隅部を構成する破風部材 1 は、その下端を内側に屈折して下面板 1 1 を形成すると共に、その中程を内側に屈折させて補強リブ 1 2 を形成しておけば、鼻隠し部材 2 は、その下端を内側に屈折して下面板 2 1 を形成してあることと相俟って、外力に対し機械的強度が大きい。

更に、破風部材 1 を出隅コーナー A に釘打ち固定する際に、上記補強リブ 1 2 内に釘を打てば釘頭が目立たず好ましい。

【 0 0 2 0 】

そして、屋根勾配 $\theta - 2$ が大きく下面板 1 1 の切欠端面 1 1 1 と鼻隠し部材 2 の下面板 2 1 の内端面との間に隙間 d を生じても、破風部材 1 の内面に閉塞ピース片 4 を取付けて、破風部材 1 と鼻隠し部材 2 との交差隙間を塞ぐことができるので、けらば出隅コーナー A を体裁良く仕上げることができる。

【 0 0 2 1 】

【 発明の効果 】

本発明は上記構成よりなるので下記効果を奏する。

即ち、本発明を用いれば、破風部材の上側端部と前記鼻隠し部材の上側端部間を、角度可変に接続固定することができるので、屋根勾配の大小に関係なく、破風と鼻隠しとが交差するけらば出隅コーナーを仕上り外観良く一挙に取付けることができ、また、屋根勾配が大きい場合には、破風部材の内面に閉塞ピース片を取付けて、破風部材と鼻隠し部材との交差隙間を塞いでけらば出隅コーナーを体裁良く仕上げることもできるものである。

【 図面の簡単な説明 】

【 図 1 】 家屋の右側のけらば出隅コーナーに取付ける本発明を展開斜視図で示す。

【 図 2 】 本発明を取付けた状態を右側面図で示す。

10

20

30

40

50

【図3】家屋の左側のけらば出隅コーナーに取付ける本発明の一実施例の取付け状態を内側斜視図で示す。

【図4】家屋の左側のけらば出隅コーナーに取付ける本発明の他の実施例の取付け状態を内側斜視図で示す。

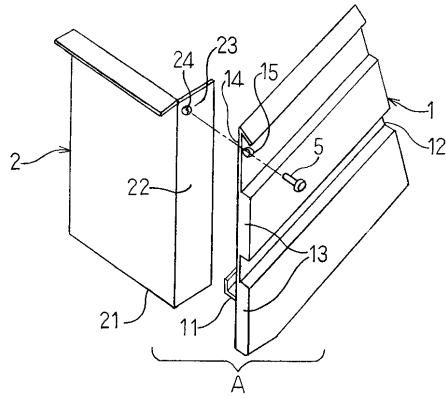
【図5】本発明においてピース取付台座に固定した閉塞ピース片を斜視図で示す。

【図6】従来技術の例を分解斜視図で示す。

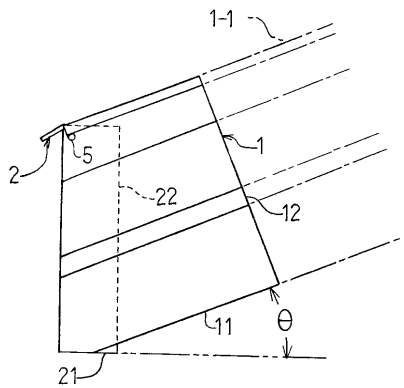
【符号の説明】

1	破風部材	
1 - 1	破風	
1 - 2	破風継部材	10
1 1	下面板	
1 1 1	切欠端面	
1 2	補強リブ	
1 3	蓋板	
1 4	上側端部	
1 5	リベット止孔	
2	鼻隠し部材	
2 - 1	鼻隠し	
2 - 2	鼻隠し継部材	20
2 1	下面板	
2 2	目隠し板	
2 3	上側端部	
2 4	リベット止孔	
3	ピース取付台座	
3 1	固定片	
4	閉塞ピース片	
4 1	閉塞板	
4 2	ビス止め部	
5	リベット	
A	けらば出隅コーナー	30

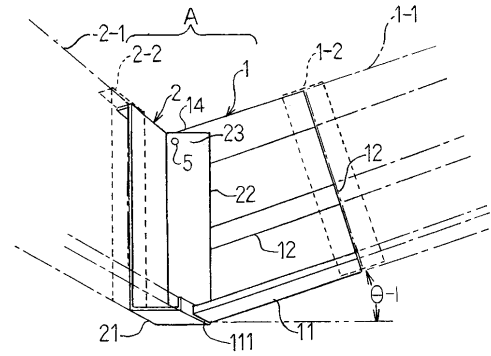
【図 1】



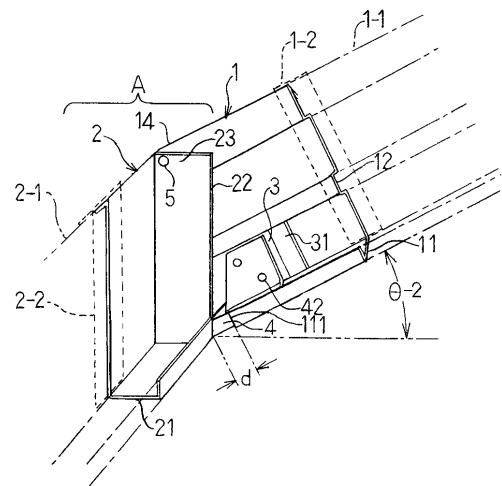
【図 2】



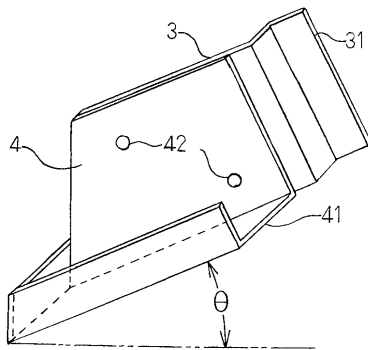
【図 3】



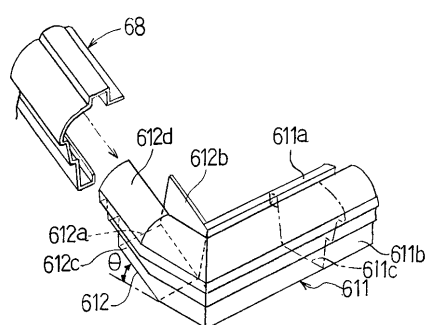
【図 4】



【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

審査官 石井 哲

- (56)参考文献 実開平01-119720(JP,U)
実開昭63-116630(JP,U)
実開昭63-027627(JP,U)
実開昭57-004529(JP,U)

(58)調査した分野(Int.Cl.⁷, DB名)

E04D 13/158 501

E04D 13/15 501